

(様式第9)

和医大病第 266 号  
平成21年10月 9日

厚生労働大臣様

和歌山県立医科大学附  
病院長 畑 壱

和歌山県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成21年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	103人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	218人	232人	450人	看護業務補助	20.1人	診療エックス線技師	人
歯科医師	5人	5人	10人	理学療法士	14.0人	臨床検査技師	39.2人
薬剤師	32人	人	32人	作業療法士	4.0人	衛生検査技師	人
保健師	1人	人	1人	視能訓練士	2.0人	その他	人
助産師	27人	2人	27.6人	義肢装具士	2.0人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	613人	4人	615.6人	臨床工学技士	7.0人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	12人	3人	14.2人	栄養士	人	その他の技術員	15人
歯科衛生士	1人	人	1人	歯科技工士	1.6人	事務職員	45人
管理栄養士	4人	人	4人	診療放射線技師	33.0人	その他の職員	22人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	665人	95人	674.5人
1日当たり平均外来患者数	1372.8人	79.5人	1452.3人
1日当たり平均調剤数	912剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・ <input type="radio"/> 無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
胎児心超音波検査	有・ <input type="radio"/> 無	人
インプラント義歯	有・ <input type="radio"/> 無	人
顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/> 無	人
顎関節症の補綴学的治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・ <input type="radio"/> 無	人
経皮的レーザー椎間板減圧術	有・ <input type="radio"/> 無	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・ <input type="radio"/> 無	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・ <input type="radio"/> 無	人
CTガイド下気管支鏡検査	有・ <input type="radio"/> 無	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	<input checked="" type="radio"/> 有・無	4人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下肝部分切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
成長障害のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・ <input type="radio"/> 無	人
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	人
声帯内自家側頭筋膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	人
骨髄細胞移植による血管新生療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
ミトコンドリア病のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・ <input type="radio"/> 無	人
神経変性疾患のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	人
重粒子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・ <input type="radio"/> 無	人
31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
神経芽腫のRNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体室素処理骨移植	有・ <input type="radio"/> 無	人
脾腫瘍に対する腹腔鏡補助下脾切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input type="radio"/> 無	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
エキシマレーザー冠動脈形成術	有・ <input type="radio"/> 無	人
活性化Tリンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・ <input type="radio"/> 無	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	人
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・ <input type="radio"/> 無	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術	有・ <input type="radio"/> 無	人
ケラチン病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・ <input type="radio"/> 無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
超音波骨折治療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・ <input type="radio"/> 無	人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <input type="radio"/> 無	人
膀胱水圧拡張術	有・ <input type="radio"/> 無	人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	有・ <input type="radio"/> 無	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	有・ <input type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下直腸固定術	有・ <input type="radio"/> 無	人
骨移動術による関節温存型再建	有・ <input type="radio"/> 無	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション	有・ <input type="radio"/> 無	人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍)	有・ <input type="radio"/> 無	人
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	有・ <input type="radio"/> 無	人
先天性難聴の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
培養細胞による先天性代謝異常診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・ <input type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
RET遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
角膜ジストロフィの遺伝子解析	有・ <input type="radio"/> 無	人
強度変調放射線治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
マイクロ波子宮内膜アブレーション	有・ <input type="radio"/> 無	人
抗EGFR抗体医薬投与前におけるKRAS遺伝子変異検査	有・ <input type="radio"/> 無	人
光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	有・ <input type="radio"/> 無	人
内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	有・ <input type="radio"/> 無	人
歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	有・ <input type="radio"/> 無	人
大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	有・ <input type="radio"/> 無	人
実物大臓器立体モデルによる手術支援	有・ <input type="radio"/> 無	人
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・ <input type="radio"/> 無	人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	<input checked="" type="radio"/> 有・無	64人
カフェイン併用化学療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
胎児尿路・羊水腔シャント術	有・ <input type="radio"/> 無	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
内視鏡下甲状腺がん手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・ <input type="radio"/> 無	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input type="radio"/> 無	人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
腹腔鏡補助下肝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援	有・ <input type="radio"/> 無	人

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

## 2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	10人	・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	0人
・多発性硬化症	21人	・ウェゲナー肉芽腫症	1人
・重症筋無力症	28人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	2人
・全身性エリテマトーデス	91人	・多系統萎縮症	0人
・スモン	0人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人
・再生不良性貧血	15人	・膿疱性乾癬	1人
・サルコイドーシス	13人	・広範脊柱管狭窄症	1人
・筋萎縮性側索硬化症	13人	・原発性胆汁性肝硬変	15人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	44人	・重症急性膵炎	2人
・特発性血小板減少性紫斑病	13人	・特発性大腿骨頭壊死症	2人
・結節性動脈周囲炎	1人	・混合性結合組織病	11人
・潰瘍性大腸炎	52人	・原発性免疫不全症候群	2人
・大動脈炎症候群	13人	・特発性間質性肺炎	2人
・ピュルガー病	2人	・網膜色素変性症	1人
・天疱瘡	6人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	24人	・原発性肺高血圧症	0人
・クローン病	23人	・神経線維腫症	2人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	1人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・パーキンソン病関連疾患	282人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	0人
・アミロイドーシス	0人	・ライゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	0人
・後縦靭帯骨化症	11人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1ヶ月に2回		
剖検の状況	剖検症例数	488例	剖検率 4.9%

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

### 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補委	
				補委	
				補委	
別紙のとおり				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	

計81

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

### 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
別紙のとおり			

計110

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
遺伝子工学的手法を用いた微小脊髄血管の血流維持機構の解明と麻酔薬作用に関する研究	中畑 克俊	麻酔科学	7,800 (2,340)	補 文部科学省
酸化ストレスの精密測定システム確立に関する研究	平野 綱彦	内科学第3	1,300 (390)	補 文部科学省
血管収縮に及ぼす局所麻酔薬の構造特異性とタンパクリン酸化酸素の発現	栗山 俊之	中央手術部	1,100 (330)	補 文部科学省
PPAR $\gamma$ を標的とした眼炎症の治療戦略	宮本 武	眼科学	1,000 (300)	補 文部科学省
Cタイプレクチンペーパー受容体DCIRとDCARによる樹状細胞機能制御機構の解明	金澤 伸雄	皮膚科学	1,600 (480)	補 文部科学省
プロポフォール代謝における遺伝子多型の影響	時永 泰行	麻酔科学	500 (150)	補 文部科学省
難治性中耳炎および副鼻腔炎に対するドラッグデリバリーシステムを用いた治療法の開発	鈴木 正樹	耳鼻咽喉科学	600 (180)	補 文部科学省
小児ネフローゼ症候群における小胞体ストレスの分子生物学的検討	島 友子	小児科学	1,500 (450)	補 文部科学省
統合失調症の神経回路網の機能障害に対する連続経頭蓋磁気刺激の効果の検討	奥村 匡敏	神経精神医学	500 (150)	補 文部科学省
統合失調症と漢方一認知機能障害の治療と客観的神経生理指標の確立	正山 勝	神経精神医学	600 (180)	補 文部科学省
肝硬変に対する新規細胞遺伝子の治療の開発	上野 昌樹	外科学第2	900 (270)	補 文部科学省
日本人脳モデル作成、MRIによる脳形成異常の統計解析、臨床応用	田村 学	脳神経外科学	500 (150)	補 文部科学省
妊娠高血圧時脳微小血管の血流調節機構の解明と麻酔薬作用に関する研究	堂城 真友子	麻酔科学	1,700 (510)	補 文部科学省
多発性嚢胞腎における尿細管上皮細胞極性欠如の分子生物学的機序解明	佐古 まゆみ	小児科学	900 (270)	補 文部科学省
N-カドヘリン・エンドサイトーシスによる神経シナプス可塑性の制御機構	泉 鉦吉	小児科学	800 (240)	補 文部科学省
自己炎症性疾患制御因子Ttc7を中心とした高IgE値と皮膚炎発症についての研究	三木田 直哉	皮膚科学	1,300 (390)	補 文部科学省

小計16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
ループスエリテマトーデスにおける肥満細胞の多機能性の検討	吉益 隆	皮膚科学	1,200 (360)	補 文部科学省
肝硬変合併肝癌に対するSmad7遺伝子治療を応用した新規肝切除術の開発	小澤 悟	外科学第二	400 (120)	補 文部科学省
PspAファミリー解析と肺炎球菌に対する新しいワクチンの開発	酒井 章博	耳鼻咽喉科学	1,500 (450)	補 文部科学省
口腔癌における抗癌剤耐性に関連する遺伝子の解析と耐性克服についての検討	中谷 現	歯科口腔外科学	1,600 (480)	補 文部科学省
脳血管障害者における障害部位と交感神経障害の関係	神埜 奈美	リハビリテーション科	2,000 (600)	補 文部科学省
ヒト多発性嚢胞腎相同モデルにおける尿管上皮細胞極性消失の分子生物学的機序解明	戸川 寛子	小児科学	1,500 (450)	補 文部科学省
二次性血球貪食症候群におけるヘムオキシゲナーゼ1の研究	芳山 恵	小児科学	1,400 (420)	補 文部科学省
ユビキチンプロテアソーム経路を応用した膵癌特異的新規樹状細胞癌ワクチン療法の開発	尾島 敏康	外科学第二	1,100 (330)	補 文部科学省
sm浸潤大腸癌治療戦略確立のための新規バイオマーカーの開発	奥 喜全	外科学第二	1,200 (360)	補 文部科学省
遺伝子発現プロファイリング解析を応用した新規膵癌治療戦略	廣野 誠子	外科学第二	1,500 (450)	補 文部科学省
アクチビン・インヒビン不均衡に因る卵巣癌・子宮内膜癌の発生と抗癌剤耐性機序の解明	馬淵 泰士	産科婦人科学	2,200 (660)	補 文部科学省
細菌のバイオフィーム形成が中耳炎の難治化に及ぼす影響と治療に関する研究	池田 頼彦	耳鼻咽喉科学	1,800 (540)	補 文部科学省
ライブセルイメージングによる遺伝子操作ブタ冠動脈攣縮機構の解明と麻酔薬作用の研究	畑埜 義雄	麻酔科学	1,500 (450)	補 日本学術振興会
消化器癌微小環境理論に立脚した新規免疫・ウイルス治療の開発	山上 裕機	外科学第二	1,700 (510)	補 日本学術振興会
新規癌関連遺伝子FIP200の肝細胞癌増殖における分子機構解析	上田 弘樹	内科学第三	1,000 (300)	補 日本学術振興会
川崎病血管炎における血管平滑筋細胞特異自己抗原の解明	鈴木 啓之	小児科学	800 (240)	補 日本学術振興会

小計16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
川崎病発症時における腸管内スーパー抗原遺伝子の研究	武内 崇	小児科学	800 (240)	補 日本学術振興会
脳磁図による機能画像を用いた統合失調症の磁気刺激療法の作用発作と有効性予測の検討	鶴飼 聡	神経精神医学	500 (150)	補 日本学術振興会
胃酸分泌変動に伴う腸内細菌叢の動態に関する検討	有井 研司	内科学第二	1,100 (330)	補 日本学術振興会
光干渉断層スペクトロスコピー法の開発と同法による不安定プラークの同定	赤阪 隆史	循環器内科学	1,600 (480)	補 日本学術振興会
TCF7L2遺伝子による糖尿病の病態解明	古田 浩人	内科学第一	900 (270)	補 日本学術振興会
呼気凝縮液を用いた気道炎症モニタリングによる難治性喘息の病態解明	松永 和人	内科学第三	1,300 (390)	補 日本学術振興会
溶血性尿毒症症候群に合併する急性脳症の発症におけるグリア細胞の研究	南 弘一	小児科学	700 (210)	補 日本学術振興会
新生児慢性肺疾患治療法の開発：NO吸入療法による肺線維化の抑制	奥谷 貴弘	総合周産期母子医療センター	1,100 (330)	補 日本学術振興会
腫瘍組織における炎症反応制御を目的とした新しい分子標的免疫療法の開発	岩橋 誠	外科学第二	1,000 (300)	補 日本学術振興会
膵癌における低酸素環境下での網羅的遺伝子解析による抗癌剤耐性機序の解明	谷 眞至	外科学第二	1,000 (300)	補 日本学術振興会
硬変肝切除後の肝再生を目的としたOncostain Mを用いた分子生物学的研究	内山 和久	外科学第二	1,990 (570)	補 日本学術振興会
ヒト非小細胞肺癌副腎転移の分子機構の解析	尾浦 正二	外科学第一	800 (240)	補 日本学術振興会
骨髄間質細胞の神経栄養効果と分化誘導作用と—そのメカニズムと再生医療への応用—	中尾 直之	脳神経外科学	1,300 (390)	補 日本学術振興会
脊髄損傷に対するP2X受容体の神経保護作用の検討	宮崎 展行	整形外科	1,300 (390)	補 日本学術振興会
糖尿病・高血圧モデルにおけるスタチンの血管内皮保護作用に及ぼす麻酔薬の研究	小川 幸志	麻酔科学	800 (240)	補 日本学術振興会
アンドロゲン依存性前立腺癌細胞株へのIL6遺伝子導入による細胞形質の変化	原 勲	泌尿器科学	700 (210)	補 日本学術振興会

小計16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
抗癌剤誘発卵巣機能障害に対する抗癌剤特異的予防内分泌療法の開発	宇都宮智子	産科婦人科学	1,300 (390)	補 日本学術振興会 委
子宮再生療法確立のための基礎的研究	梅咲 直彦	産科婦人科学	1,100 (330)	補 日本学術振興会 委
小児中耳炎の難治化の病態解明と自然免疫および特異的免疫の賦活に関する研究	山中 昇	耳鼻咽喉科学	1,300 (390)	補 日本学術振興会 委
Smadリンカー領域リン酸化上皮-間葉系移行と線維化での役割の研究	雑賀 司珠也	眼科学	800 (240)	補 日本学術振興会 委
超大孔径膜血液濾過による致死性メチエンタHMGB-1除去についての研究	中 敏夫	救急集中治療部	1,400 (420)	補 日本学術振興会 委
手根管症候群の病態に関する基礎的研究と装具療法への応用	辻 亜紀子	リハビリテーション科	1,400 (420)	補 日本学術振興会 委
冠動脈プラーク不安定化における単球及び血管内皮前駆細胞の関与と治療法の確立	今西 敏雄	循環器内科学	1,500 (450)	補 日本学術振興会 委
慢性閉塞性肺疾患の組織傷害における線維芽細胞の役割の解明	杉浦 久敏	内科学第三	1,100 (330)	補 日本学術振興会 委
腎機能傷害に伴うリン過剰に応答するリン感受性機構と石灰化に伴う血管障害の検討	重松 隆	腎臓内科・血液浄化センター	1,500 (450)	補 日本学術振興会 委
筋再生過程におけるウロキナーゼの関与の検討	村田 顕也	神経内科	1,500 (450)	補 日本学術振興会 委
二次性血球食食症候群におけるT細胞抑制性補助シグナルの研究	神波 信次	小児科学	1,900 (570)	補 日本学術振興会 委
上皮間葉移行(EMT)に着目した多発性嚢胞腎発症機序の分子生物学的検討	中西 浩一	小児科学	1,600 (480)	補 日本学術振興会 委
反復経頭蓋磁気刺激と脳画像によるうつ病の治療反応性の解明	篠崎 和弘	神経精神医学	1,500 (450)	補 日本学術振興会 委

小計13

- (注 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。  
 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
消化器癌に対するTGF- $\beta$ siRNA導入樹状細胞による新規免疫遺伝子治療の開発	中村 公紀	外科学第二	2,100 (630)	補 日本学術振興会 委
肝硬変合併肝切除術後に効果的な熱量補給を可能にする新組成脂肪乳剤の有用性	瀧藤 克也	中央内視鏡部	1,700 (510)	補 日本学術振興会 委
CEACAM1を分子標的とした大腸癌の新規分化誘導療法の開発	横山 省三	中央手術部	1,400 (420)	補 日本学術振興会 委
スキルス胃癌に対するハイブリッド型機能分子搭載ウイルスによる新規治療開発	中森 幹人	外科学第二	2,200 (660)	補 日本学術振興会 委
食道癌に対する癌抑制遺伝子NPRL2を用いた新規放射線治療の開発	上田 健太郎	外科学第二	1,500 (450)	補 日本学術振興会 委
グラフト血流波形解析によるグラフト開存の予測	岡村 吉隆	外科学第一	1,600 (480)	補 日本学術振興会 委
血管内皮増殖因子の心筋直接導入による虚血性心不全の改善	金子 政弘	外科学第一	1,600 (480)	補 日本学術振興会 委
脊髄損傷細胞死におけるGluR2の関与について	吉田 宗人	整形外科学	2,000 (600)	補 日本学術振興会 委
遺伝子多型に基づいた麻酔中の血圧変動の予測	木本 吉紀	麻酔科学	1,500 (450)	補 日本学術振興会 委
DAPキナーゼ関連分子の発現制御による抗癌剤多剤耐性克服癌治療法の開発	田中 哲二	産科婦人科学	1,300 (390)	補 日本学術振興会 委
網膜芽細胞腫に対する新治療法開発に関する研究	宮崎 賢一	眼科学	1,500 (450)	補 日本学術振興会 委
フェノールのアポトーシス誘導能を利用した皮膚血管肉腫および上皮系腫瘍の治療の開発	古川 福実	皮膚科学	900	補 日本学術振興会 委
網羅的ゲノム1次構造異常解析と発現プロファイリングを応用した新規膵癌治療戦略	山上 裕機	外科学第二	900	補 日本学術振興会 委

小計13

- (注 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。  
 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第 1 1)

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

### 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
神経新生と神経保護による神経機能回復に関する検討ー羊膜細胞による微小環境効果ー	垣下 浩二	脳神経外科学	700	<input checked="" type="checkbox"/> 補 日本学術振興会委
揮発性麻酔薬に対する抗体の作成	畑埜 義雄	麻酔科学	1,900	<input checked="" type="checkbox"/> 補 日本学術振興会委
一酸化窒素合成酵素の直接導入による下肢虚血の改善	畑田 充俊	救急集中治療部	1,220 (366)	<input checked="" type="checkbox"/> 補 日本学術振興会委
容連菌の細菌ー宿主細胞相互作用および治療戦略に関する分子生物学的アプローチ	山中 昇	耳鼻咽喉科学	800	<input checked="" type="checkbox"/> 補 日本学術振興会委
頭頸部癌の転移を予測する新しいバイオマーカーに関する分子遺伝学的研究	山中 昇	耳鼻咽喉科学	1,200	<input checked="" type="checkbox"/> 補 日本学術振興会委
小児ネフローゼ症候群に対する初期治療確立を目指した多施設共同臨床研究と拡大臨床試験体制整備	吉川 徳茂	小児科学	62,212 (18,663)	<input checked="" type="checkbox"/> 補 厚生労働省委
気道炎症モニタリングの一般臨床応用化：新しい喘息管理目標の確立に関する研究	一ノ瀬 正和	内科学第三	20,000 (6,000)	<input checked="" type="checkbox"/> 補 厚生労働省委

合計81

- (注 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
総合臨牀	OCTによる冠動脈狭窄病変評価	中村信男, 赤阪隆史	循環器内科
日獨医報	冠動脈 プラーク診断(OCT)	大河内啓史, 田中篤, 赤阪隆史	循環器内科
メディカル・ビューポイント	OCT	北端宏規, 赤阪隆史	循環器内科
臨床雑誌内科3月号	OCTによる新しい冠動脈イメージング	北端宏規, 赤阪隆史	循環器内科
心臓	Optical coherence tomography	池島英之, 財田滋穂, 赤阪隆史	循環器内科
Heart View 2008年6月号	Optical coherence tomography	有田祐, 中村信男, 赤阪隆史	循環器内科
Circulation-Up-to-Date	不安定プラークの画像診断:治療へどのように活用されるか。不安定プラークの診断と治療:OCTからの検討-OCTの診断方法/治療への活用	田中篤, 赤阪隆史	循環器内科
Tokyo Heart Journal	不安定プラークの画像診断-OCTによる挑戦。進歩する心臓研究	赤阪隆史	循環器内科
循環器科	OCTによる不安定プラークの診断	大河内啓史, 北端宏規, 赤阪隆史	循環器内科

小計 9

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Diabetes Res Clin Pract. 80:265-270, 2008	Cardio-ankle vascular index measures arterial wall stiffness independent of blood pressure.	Junko Ibata	内科学第一
糖尿病 51(2):109-115, 2008	糖尿病慢性合併症の発症・進展要因 —長期経過観察例での検討—	岸本あかね	内科学第一

小計 2

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
胃と腸 43 = 1241-1247, 2008	経鼻内視鏡による胃液スリッ→7g 現状と問題点	中田博也 他	第2内科
Gastroenterological Endoscopy 50 = 3019-3026, 2008	ショートガイドワイヤ-を用いたENBD (Endoscopic Naso Biliary Drainage) ワイヤ作成と有用性の検討	土田和樹 他	第2内科
Int J Cancer (2009) in press	Eradication of Helicobacter pylori Prevents cancer development in subjects with mild gastric atrophy identified by Serum pepsinogen levels.	柳岡公彦 他	第2内科
Int J Cancer (2010) In press	Preventive effect of etodolac, a selective cyclooxygenase-2 inhibitor, on cancer development in extensive metaplastic gastritis, a Helicobacter pylori - negative precancerous lesion.	柳岡公彦 他	第2内科
Hepatology International (2009) in press	Diffuse intrahepatic recurrence after percutaneous radiofrequency ablation for solitary and small hepatocellular carcinoma.	森良幸 他	第2内科

小計 5

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること (当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pulm Pharmacol Ther 21 : 160-165, 2008	Comparison of bronchodilatory properties of transdermal and inhaled long-acting $\beta_2$ -agonists	T. Yamagata	内科学第三 (呼吸器)
Intern Med 47 : 77-82, 2008	Prevalence of COPD in Primary Care Clinics: Correlation with Non-Respiratory Diseases	Y. Minakata	内科学第三 (呼吸器)
Intern Med 47 : 217-223, 2008	Efficacy and Safety of Formoterol in Japanese Patients with COPD	Y. Minakata	内科学第三 (呼吸器)
J Allergy Clin Immunol 121 : 355-360, 2008	Nitrative stress in refractory asthma	H. Sugiura	内科学第三 (呼吸器)
Antioxid Redox Signal 10 : 785-798, 2008	Oxidative and Nitrative Stress in Bronchial Asthma	H. Sugiura	内科学第三 (呼吸器)
Intern Med 47 : 411-414, 2008	Rapid Intrahepatic Tumor Seeding after Percutaneous Ethanol Injection Therapy for Hepatocellular Carcinoma	H. Tanaka	内科学第三 (呼吸器)
Oncol Rep 19 : 1355-1361, 2008	Adjuvant chemotherapy with tegafur/uracil administration after transcatheter arterial chemoembolization for advanced hepatocellular carcinoma	H. Ueda	内科学第三 (呼吸器)
Respirology 13 : 420-426, 2008	Validation of symptom-based COPD questionnaires in Japanese subjects	T. Kawayama Y. Minakata	内科学第三 (呼吸器)
Intern Med 47 : 1107-1112, 2008	Peak Expiratory Flow Variability Adjusted by Forced Expiratory Volume in One Second is a Good Index for Airway Responsiveness in Asthmatics	K. Matsunaga	内科学第三 (呼吸器)

小計 9

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 294 : 1226-1232, 2008	Prostacyclin analogs stimulate VEGF production from human lung fibroblasts in culture	K. Kamio H. Sugiura	内科学第三 (呼吸器)
Am J Respir Crit Care Med.178 : 248-260, 2008	Lung fibroblast repair functions in patients with chronic obstructive pulmonary disease are altered by multiple mechanisms	S. Togo H. Sugiura	内科学第三 (呼吸器)
Journal of Chronic Obstructive Pulmonary Disease 5 : 269-273, 2008	Poor Sensitivity of Symptoms in Early Detection of COPD	K. Akamatsu	内科学第三 (呼吸器)
Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol 295 : 800-808, 2008	Peroxynitrite augments fibroblast-mediated tissue remodeling via myofibroblast differentiation	T. Ichikawa	内科学第三 (呼吸器)
Chest 135 : 94-101, 2009	The Possible Role of Hematopoietic Cell Kinase in the Pathophysiology of COPD	S. Yanagisawa	内科学第三 (呼吸器)
Respir Physiol Neurobiol 166: 16-23, 2009	The regulation of amiloride-sensitive epithelial sodium channels by tumor necrosis factor-alpha in injured lungs and alveolar type II cells	T. Yamagata	内科学第三 (呼吸器)
Allergol Int 58: 89-96, 2009	Molecular Mechanism of the Additive Effects of Leukotriene Modifier in Asthmatic Patients Receiving Steroid Therapy	K. Matsunaga	内科学第三 (呼吸器)
Respiratory Physiology & Neurobiology 166: 61-67, 2009	Regulation of adenosine 5'-triphosphate (ATP)-gated P2X <sub>4</sub> receptors on tracheal smooth muscle cells	R. Nagaoka M. Ichinose	内科学第三 (呼吸器)
Respiratory Cell and Molecular Biology 40: 654-662, 2009	Activation of Toll-Like Receptor 3 Augments Myofibroblast Differentiation.	H. Sugiura	内科学第三 (呼吸器)

小計 9

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Allergology International 58: 307-313, 2009	Differences of Inflammatory Mechanisms in Asthma and COPD	M. Ichinose	内科学第三 (呼吸器)

小計 1

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Coronary Intervention	ステント血栓症 2009 : OCT からみたステント血栓症	田中篤, 赤阪隆史	循環器内科
Circ J	Safety and usefulness of non-occlusion image acquisition technique for optical coherence tomography	Kataiwa H, Tanaka A, Kitabata H, Imanishi T, Akasaka T	循環器内科
JACC : CARDIOVASCULAR IMAGING	Comparison of Vascular Response After Sirolimus-Eluting Stent Implantation Between Patients With Unstable and Stable Angin a Pectoris	Kubo T, Imanishi T, Kitabata H, Kuroi A, Ueno S, Yamano T, Tanimoto T, Matsuo Y, Masho T, Takarada S, Tanaka A, Nakamura N, Mizukoshi M, Tomobuchi Y, Akasaka T	循環器内科
JACC : CARDIOVASCULAR IMAGING	Implication of plaque color classification for assessing plaque vulnerability : A coronary angiography and optical coherence tomography investigation.	Kubo T, Imanishi T, Kitabata H, Kuroi A, Ueno S, Yamano T, Akasaka T	循環器内科
Am J Cardiol	Safety and feasibility of an intravascular optical coherence tomography image wire system in the clinical setting	Yamaguchi T, Terashima M, Akasaka T, Hayashi T, Mizuno K, Muramatsu T, Nakamura M, Nakamura S, Saito S, Takano M, Takayama T, Yoshikawa J, Suzuki T	循環器内科

小計5

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること (当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Circulation	Morphology of exertion-triggered plaque rupture in patients with acute coronary syndrome. an optical coherence tomography study	Tanaka A, Imanishi T, Kitabata H, Kubo T, Takarada S, Tanimoto T, Kuroi A, Tsujioka H, Ikejima H, Ueno S, Kataiwa H, Okouchi K, Kashiwaghi M, Matsumoto H, Takemoto K, Nakamura N, Hirata K, Mizukoshi M, Akasaka T	循環器内科
Am J Cardiol	Distribution and frequency of thin-capped fibroatheromas and ruptured plaques in the entire culprit coronary artery in patients with acute coronary syndrome as determined by optical coherence tomography	Tanaka A, Imanishi T, Kitabata H, Kubo T, Takarada S, Kataiwa H, Kuroi A, Tsujioka H, Tanimoto T, Nakamura N, Mizukoshi M, Hirata K, Akasaka T	循環器内科
Heart	Cardiac optical coherence tomography	Raffel OC, Akasaka T, Jang IK	循環器内科
Expert Review of Medical Devices	Recent advances in intracoronary imaging techniques: focus on optical coherence tomography	Kubo T, Akasaka T	循環器内科
Heart	Identification of multiple plaque ruptures by optical coherence tomography in a patient with acute myocardial infarction: a three-vessel study	Kitabata H, Kubo T, Akasaka T	循環器内科

小計5

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Circ J	Various types of plaque disruption in culprit coronary artery visualized by optical coherence tomography in a patient with unstable angina	Tanimoto T, Imanishi T, Tanaka A, Yamano T, Kitabata H, Takarada S, Kubo T, Nakamura N, Hirata K, Mizukoshi M, Akasaka T	循環器内科
Circulation	Images in cardiovascular medicine. Fibrin clot visualized by optical coherence tomography	Kume T, Okura H, Kawamoto T, Akasaka T, Toyota E, Watanabe N, Neishi Y, Sadahira Y, Yoshida K	循環器内科

小計 2

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 1 1)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
外科治療	乳癌センチネルリンパ節微小転移例に対する腋窩温存	尾浦正二	第一外科
General Thoracic and Cardiovascular Surgery	Histoculture drug response assay for gefitinib in non-small-cell lung cancer.	Yoshimasu T.	Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery

小計 2

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限り)。  
 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Surg Today.	Pylorus-preserving pancreaticoduodenectomy versus conventional pancreaticoduodenectomy for pancreatic adenocarcinoma.	Tani M, Kawai M, Hirono S, Ina S, Miyazawa M, Fujita Y, Uchiyama K, Yamaue H.	消化器・小児・内分泌外科
J Hepatobiliary Pancreat Surg.	Xanthogranulomatous cholecystitis: the use of preoperative CT findings to differentiate it from gallbladder carcinoma.	Uchiyama K, Ozawa S, Ueno M, Hayami S, Hirono S, Ina S, Kawai M, Tani M, Yamaue H.	消化器・小児・内分泌外科
Am Surg.	Risk factors and management for massive bleeding of an acute hemorrhagic rectal ulcer.	Hotta T, Takifuji K, Tonoda S, Mishima H, Sasaki M, Yukawa H, Mori K, Fuku A, Yamaue H.	消化器・小児・内分泌外科
Dig Surg.	Survival of patients with T3 stage III rectal cancer is significantly worse than T2 stage III rectal cancer. A new proposal of a subdivision of stage III rectal cancer.	Hotta T, Takifuji K, Yokoyama S, Matsuda K, Higashiguchi T, Tominaga T, Oku Y, Nasu T, Tamura K, Yamaue H.	消化器・小児・内分泌外科
Hepato-gastroenterology.	Early conversion from oral morphine to transdermal fentanyl in patients with cancer pain.	Tani M, Fuku A, Terashita S, Kashiwagi H, Yukawa H, Yamaue H.	消化器・小児・内分泌外科
Clin Cancer Res.	Identification of the molecular mechanisms for dedifferentiation at the invasion front of colorectal cancer by a gene expression analysis.	Oku Y, Shimoji T, Takifuji K, Hotta T, Yokoyama S, Matsuda K, Higashiguchi T, Tominaga T, Nasu T, Tamura K, Matsuura M, Miyata S, Kato Y, Yamaue H, Miki Y.	消化器・小児・内分泌外科

J Hepatobiliary Pancreat Surg.	Assessment of liver function for successful hepatectomy in patients with hepatocellular carcinoma with impaired hepatic function.	Uchiyama K, Mori K, Tabuse K, Ueno M, Ozawa S, Nakase T, Kawai M, Tani M, Tanimura H, Yamaue H.	消化器・小児・内分 泌外科
Anticancer Res.	Phase 2 trial of oral S-1 combined with low-dose cisplatin for unresectable advanced pancreatic cancer.	Ina S, Tani M, Kawai M, Hirono S, Miyazawa M, Nishioka R, Fujita Y, Yamaue H.	消化器・小児・内分 泌外科
J Hepatobiliary Pancreat Surg.	Transection using bipolar scissors reduces pancreatic fistula after distal pancreatectomy.	Kawai M, Tani M, Yamaue H.	消化器・小児・内分 泌外科

小計3

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Langenbecks Arch Surg.	Long-term comorbidity of diabetes mellitus is a risk factor for perineal wound complications after an abdominoperineal resection.	Matsuda K, Hotta T, Takifuji K, Yokoyama S, Higashiguchi T, Tominaga T, Oku Y, Nasu T, Tamura K, Yamaue H.	消化器・小児・内分泌外科
J Hepatobiliary Pancreat Surg.	Laparoscopic splenectomy is a safe and effective procedure for patients with splenomegaly due to portal hypertension.	Hama T, Takifuji K, Uchiyama K, Tani M, Kawai M, Yamaue H.	消化器・小児・内分泌外科
J Hepatobiliary Pancreat Surg.	Intraabdominal hemorrhage after a pancreatectomy.	Tani M, Kawai M, Yamaue H.	消化器・小児・内分泌外科
Am J Surg.	Laparoscopic resection for gastrointestinal stromal tumors of the stomach.	Nakamori M, Iwahashi M, Nakamura M, Tabuse K, Mori K, Taniguchi K, Aoki Y, Yamaue H.	消化器・小児・内分泌外科

小計 4

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本整形学会雑誌	腰椎変性疾患に対する最小侵襲手術	吉田 宗人	整形外科教室
日本整形外科学会雑誌	腰部脊柱管狭窄症—その病態の多様性と治療法の選択—	吉田 宗人	整形外科教室
日本整形外科学会雑誌	三次元MRIを用いた腰椎椎間孔内・外の狭窄ならびに圧迫病変の診断	山田 宏	整形外科教室
日本整形外科学会雑誌	腰椎椎間孔外狭窄に対する新しい電気生理学的診断法の確立	岩崎 博	整形外科教室
日本整形外科学会雑誌	浅腓骨神経感覚神経活動電位と3D-MRIを用いた腰椎椎間孔部狭窄の診断の検討	遠藤 徹	整形外科教室
日本脊椎脊髄病学会雑誌	いわゆるFar-out syndromeに対する脊椎内視鏡下後方除圧術の治療成績	山田 宏	整形外科教室
日本脊椎脊髄病学会雑誌	腰椎変性すべり症に対する内視鏡下腰椎後方神経除圧術の臨床成績—前向き研究	南出 晃人	整形外科教室
日本脊椎脊髄病学会雑誌	腰椎後方内視鏡手術の周術期合併症とその対策	中川 幸洋	整形外科教室
日本脊椎脊髄病学会雑誌	腰椎椎間板ヘルニアに対する内視鏡下髄核摘出術の長期治療成績	河合 将紀	整形外科教室

小計9

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本脊椎脊髄病学会雑誌	腰椎椎間板ヘルニアに対する 内視鏡下骸核摘出術の長期治療成績	河合 将紀	整形外科教室
日本脊椎脊髄病学会 雑誌	腰椎椎間孔外狭窄病変に対する新しい 電気生理学的診断法の試み	岩崎 博	整形外科教室
Cervical Spine Research Society European Section Annual Meeting. Spine Week,	A new surgical method using microendoscopy for cervical myelopathy - a comparative prospective study between conventional expansive laminoplasty and microendoscopic laminoplasty.	南出 晃人	整形外科教室
Cervical Spine Research Society European Section Annual Meeting. Spine Week,	Usefulness of combination of SPN-SNAP and three dimensional magnetic resonance imaging for diagnosis of foraminal and extraforaminal stenosis	遠藤 徹	整形外科教室
The 8th Pacific Asian Society of Minimally Invasive Spine Surgery	Microendoscopic laminoplasty for cervical myelopathy -surgical procedure and clinical results-	吉田 宗人	整形外科教室
The 8th Pacific Asian Society of Minimally Invasive Spine Surgery	A Prospective Study for Clinical Outcomes of Microendoscopic Decompression Surgery without Fusion for Degenerative Lumbar Spondylolisthesis.	南出 晃人	整形外科教室
The 8th Pacific Asian Society of Minimally Invasive Spine Surgery	Clinical Application of Ultrasonic Bone Scalpel for Posterior Microendoscopic Surgery.	中川 幸洋	整形外科教室
The 8th Pacific Asian Society of Minimally Invasive Spine Surgery	Perioperative Complication in Posterior Lumbar Microendoscopic Surgery.	中川 幸洋	整形外科教室

小計 8

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
The 8th Pacific Asian Society of Minimally Invasive Spine Surgery	A Prospective Study of Closed Suction Drainage System in Posterior Microendoscopic Surgery.	中川 幸洋	整形外科教室
The 8th Pacific Asian Society of Minimally Invasive Spine Surgery	The long-term clinical results of Microendoscopic discectomy for the lumbar dis herniation.	河合 将紀	整形外科教室
The 8th Pacific Asian Society of Minimally Invasive Spine Surgery	Do high-aged people with lumbar spinal disorder need instrumentation surgery?	延與 良夫	整形外科教室
The 8th Pacific Asian Society of Minimally Invasive Spine Surgery	C5 Plasty after Microendoscopic Laminotomy for Cervical Myelopathy	木岡 雅彦	整形外科教室

小計 4

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること (当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Endocr Metab Immune Disord Drug Targets	Fibrotic disorders in the eye: targets of gene therapy	雑賀司珠也	眼科学教室
Prog Retin Eye Res	Epithelial-mesenchymal transition as a therapeutic target for prevention of ocular tissue fibrosis	雑賀司珠也	眼科学教室
Invest Ophthalmol Vis Sci	Suppression of injury-induced conjunctiva scarring by peroxisome proliferator-activated receptor gamma gene transfer in mice	山中修	眼科学教室
Jpn J Ophthalmol	Connective tissue growth factor modulates extracellular matrix production in human subconjunctival fibroblasts and their proliferation and migration in vitro	山中修	眼科学教室
Jpn J Ophthalmol	Perturbed intraepithelial differentiation of corneal epithelium in c-Fos-null mice	岡田由香	眼科学教室
IOL&RS	眼内レンズ二次縫着(片側縫着)術成績の検討	中田元子	眼科学教室
眼科臨床紀要	眼症状を初発とし診断に苦慮した再発性多発性軟骨炎の一症例	田中才一	眼科学教室
Invest Ophthalmol Vis Sci	Corneal wound healing in an osteopontin-deficient mouse	宮崎賢一	眼科学教室
Molecular Vision	Inhibitory effect of blocking TGF- $\beta$ /Smad signal on injury-induced fibrosis of corneal endothelium	住岡孝吉	眼科学教室

小計 9

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
眼科臨床紀要	自然閉鎖を認めた特発性黄斑円孔の1例	藤田識人	眼科学教室
Carr Eye Res	Tetrandrine suppresses activation of human subconjunctival fibroblasts in vitro	北野愛	眼科学教室
Japanese Journal of Ophthalmology	Expression pattern of sonic hedgehog and effect of topical mitomycin C on its expression in human ocular surface neoplasms	藤田恭子	眼科学教室

小計3

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本化学療法学会雑誌 56(5) 525-537 2008	急性咽頭炎、急性扁桃炎および 急性鼻副鼻腔炎に対する azithromycin 単回投与製剤の 多施設共同、非盲検非対照試験	山中 昇	和歌山医大 耳鼻咽喉科
日本化学療法学会雑誌 56(1) 7-15 2008	急性鼻副鼻腔炎に対する gatifloxacin の有効性 スコアリング システム を用いた評価	保富 宗成	、
J Clin Microbiol. 2008 Nov; 46(11) 3808-10	Serotype distribution and Penicillin resistance of Streptococcus pneumoniae isolates from middle ear fluids of pediatric patients with acute otitis media in Japan. Advanced Treatment for Otitis Media Study Group (ATOMS)	Hotomi M	、

小計 3

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Oncology Biol.Phys 2008:72, 1002-1009	High-dose-rate brachytherapy of a single implant with two tractions combined with external beam radiotherapy for hormone-naïve prostate cancer Int. J.	佐藤 守男 白井 信太郎 岸 和史 森 喬史 稲垣 武 原 勲	放射線科   泌尿器科
J Vaic Interr Radiol 2008:19, 1646-1651	Effectiveness of hepatic arterial model: Relationship to portal venous flow parenchymal pressure	岩本 卓也 河合 信行 佐藤 守男 谷畑 博彦 高坂 功 南口 博紀 佐原 伸也 中田 耕平 白井 信太郎	放射線科

小計2

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
BMC cancer	CXCR4 expression in papillary thyroid carcinoma: induction by nitric oxide and correlation with lymph node metastasis.	安岡弘直, 中村靖司, 三家登喜夫	臨床検査医学
J Clin Pathol	Podocalyxin expression in undifferentiated thyroid carcinomas.	安岡弘直, 中村靖司, 三家登喜夫	臨床検査医学

小計 2

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Leukemia	Kojima K, Shimanuki M, Shikami M, Samudio IJ, Ruvolo V, Corn P, Hanaoka N, Konopleva M, Andreeff M, Nakakuma H :The dual PI3 kinase/mTOR inhibitor PI-103 prevents p53 induction by Mdm2 inhibition but enhances p53-mediated mitochondrial apoptosis in p53 wild-type AML. Leukemia 22:1728-1736, 2008	小島 研介	輸血・血液疾患治療部
Blood	Kojima K, Konopleva M, Tsao T, Nakakuma H, Andreeff M: Concomitant inhibition of Mdm2-p53 interaction and Aurora kinases activates the p53-dependent postmitotic checkpoints and synergistically induces p53-mediated mitochondrial apoptosis along with reduced endoreduplication in acute myelogenous leukemia. Blood 112:2886-2895, 2008	小島 研介	輸血・血液疾患治療部
Intern Med	Uneda S, Sonoki T, Nakamura Y, Matsuoka H and Nakakuma H: Rapid vanishing of tumors by withdrawal of methotrexate in Epstein-Barr virus-related B cell lymphoproliferative disorder. Intern Med 47: 1445-1446, 2008	園木 孝志	集学的治療・緩和ケア部
Int J Hematol	Sonoki T, Ishihara S, Uneda S, Hanaoka N, Kurimoto M, Matsuoka H and Nakakuma H: Aggressive CD5-positive B-cell lymphoma after remission of CD5-negative follicular lymphoma with distinct immunoglobulin heavy chain rearrangement and translocation. Int J Hematol 88: 299-303, 2008	園木 孝志	集学的治療・緩和ケア部
Int J Hematol	Uneda S, Gotoh M, Sonoki T, Nishida K, Nakamura Y, Kurimoto M, Hanaoka N, Matsuoka H, Taniwaki M and Nakakuma H: Establishment of CD5 and CD10 double-positive mature B-cell line, WILLI, showing complex 8q24 translocation involving 14q32 and 6q27. Int J Hematol 88: 536-542, 2008	園木 孝志	集学的治療・緩和ケア部

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am J Nephrol.	Direct injection of calcitriol or its analog improves abnormal gene expression in the hyperplastic parathyroid gland in uremia.	Shiizaki K, Fukagawa M, Yuan Q, Hatamura I, Nii-Kono T, Saji F, Shigematsu T, Akizawa T	腎臓内科・血液浄化センター
Nephrol Dial Transplant.	Highly concentrated calcitriol and its analog induce apoptosis of parathyroid gland and regression of the hyperplastic gland in rats.	Shiizaki K, Hatamura I, Negi S, Sakaguchi T, Saji F, Imazeki I, Kusano E, Shigematsu T, Akizawa T	//
Med Mol Morphol.	Review: Molecular and morphological changes of uremia-induced hyperplastic parathyroid gland following direct maxacalcitol injection.	Shiizaki K, Hatamura I, Nakazawa E, Ogura M, Masuda T, Akizawa T, Kusano E	//

合計  
110

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 畑埜 義雄
管理担当者氏名	事務局長 脇田 文広

	保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病院課 中央病歴部 薬剤部 各診療部門	カルテ、X線写真等は、中央病歴部において集中管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	事務局総務課
	高度の医療の提供の実績	事務局病院課
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	事務局病院課
	高度の医療の研修の実績	事務局病院課
	閲覧実績	事務局病院課
	紹介患者に対する医療提供の実績	事務局病院課
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	事務局病院課 薬剤部	
確規保則の第9条の2及び第1条の11各号に掲げる体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全推進室
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全推進室
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全推進室
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進室
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進室
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進室	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	事務局病院課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	事務局病院課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	事務局病院課
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	事務局病院課		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 畑埜 義雄	
閲覧担当者氏名	総務課 瀬藤 和雄 医療安全推進室 谷口 明美	病院課長 服部 一宏
閲覧の求めに応じる場所	病院課	

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	71.8%	算定期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日
算出根拠 A: 紹介患者の数			14,725人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			12,274人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			4,535人
D: 初診の患者の数			31,669人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 9 条の 2 3 及び第 1 条の 1 1 各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	㊥ (3名)・無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	㊥ (4名)・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	㊥・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 所属職員： 専任 (3) 名 兼任 (61) 名</li><li>・ 活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>ア 医療安全推進部の業務に関する企画立案及び評価</li><li>イ 医療安全に関する研修その他職員の意識の向上に関する指導</li><li>ウ インシデントレポート及びアクシデントレポートの受理及び分析評価</li><li>エ 医療安全推進委員会及び医療事故調査委員会の運営に必要な事務</li><li>オ 診療録及び看護記録等の記載事項の確認と指導</li><li>カ その他医療の安全推進に必要な業務全般</li></ul></li></ul>	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	㊥・無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	㊥・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容： 医療関係者それぞれが役割分担と責任のもと、連携したチーム医療を推進しインフォームドコンセントを基本として、安全かつ適切な医療の提供体制を確立することを目指して、次の諸規程を制定している。<ul style="list-style-type: none"><li>ア 医療安全推進規程</li><li>イ 医療事故発生時の対応マニュアル</li></ul></li></ul>	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 活動の主な内容： 平成 1 2 年 1 2 月 1 日から「医療安全推進の新制度」をスタートさせて以降、医療安全推進委員会を月 1 回開催している。<ul style="list-style-type: none"><li>ア 医療事故等の分析と安全管理に係る改善策や院内統一基準の制定</li><li>イ 医療安全推進部及びリスクマネージャー会議からの提案事項の審議</li><li>ウ 医療事故等の情報開示のあり方の検討</li><li>エ その他、医療の安全確保と医療の質の向上に関すること</li></ul></li></ul>	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 1 0 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容： 平成 2 0 年度実施状況<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「チーム医療におけるコミュニケーション／医療安全への取り組み」 (5 月)</li><li>・ DVD 研修「危険予知 (KYT) について」 (6 月) 2 日間・6 回上映</li><li>・ 田邊弁護士による講演「医療事故対応について」 (8 月)</li><li>・ 「危険薬についてー抗がん剤の取り扱いー／インシデントから学ぶ危険予知」 (9 月)</li><li>・ 看護部長による講演「医療安全と個人の行動」 (1 0 月)</li><li>・ DVD 研修「医療訴訟トラブル防止のポイント」 (1 1 月) 2 日間・1 0 回上映</li><li>・ 外部講師による講演「肺血栓塞栓症から患者さんを守ろう」 (1 月)</li><li>・ DVD 研修「個人情報保護法とインフォームドコンセント」 (1 月) 2 日間・8 回上映</li><li>・ 外部講師による講演「医薬品における安全管理について」 (2 月)</li><li>・ 外部講師による講演「住友金属工業 (株) における安全取組」 (3 月)</li></ul></li><li>平成 2 1 年度実施計画<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特別講演「リスクマネージャーの役割とは」 (4 月)</li><li>・ 講演「安全な医療を提供するために／危険薬誤投与防止について」 (5 月)</li></ul></li></ul>	

- ・講演「せん妄について／せん妄の予防と診断治療について」（6月）
- ・外部講師による講演「医療メデイエーションによるコンフリクト・マネジメント」（7月）
- ・DVD研修「医療現場におけるコミュニケーション」（9月）2日間・6回上映
- ・トピックス研修「モニターのアラームと安全管理」（9月）2日間
- ・DVD研修（10月予定）2日間
- ・講演（11月予定）
- ・講演（12月予定）2日間
- ・DVD研修（1月予定）
- ・1年間の総括（3月予定）

⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 （・無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 

医療安全推進規程等に基づいて、院内報告制度を定め、積極的な報告の指導に努めている。また、容易に報告出来るようにシステム改善を行っている。

インシデントレポートの迅速かつ適切な分析等に努めるとともに、リスクマネージャー会議を通じて、医療安全推進策の検討と情報共有を推進している。

医療安全推進部にA I事例検討会を設置しアクシデントレポート及びインシデントレポートの具体的課題に関して迅速かつ集中的に分析検討する。

更にアクシデントレポートは、医療安全推進委員会で改善策の検討協議を行うとともに、医療事故調査委員会での審議を必要とするものについては、随時、同委員会での審議を求めている。



院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>院内感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>院内感染対策の組織に関する基本的事項（設置組織・所掌事務等）</li> <li>院内感染対策のための職員研修に関する基本方針</li> <li>感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>院内感染発生時の対応に関する基本指針</li> <li>患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針</li> </ul> </li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>感染症の予防に関する方針の策定</li> <li>感染症予防対策の部門間調整</li> <li>感染症に関連する検査報告、経過、原因の追跡調査及び整理分析</li> <li>感染症予防に係る指導及び勧告</li> </ul> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年7回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>「院内感染予防について」新規採用職員研修</li> <li>「感染対策をその手に」DVD研修</li> <li>「インフルエンザ2008」</li> <li>「和歌山県におけるHIV感染症の現状と中核拠点病院の役割」・「HIV診療の現状と課題」</li> <li>「中核拠点病院に期待すること」</li> <li>「告訴事例を通しての感染対策」</li> <li>「感染対策の基礎とノロウイルス感染対策～ノロウイルスにかからない・拡げない～」</li> <li>「感染の成立・標準予防策・針刺しした場合の対応」</li> </ul> </li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>病棟ラウンドの実施</li> <li>感染症治療及び感染制御に関するコンサルテーションの実施</li> <li>サーベイランスの実施と院内へのフィードバック</li> <li>感染対策マニュアルの見直し及び改訂</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: right;">（有・無）</p>	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>【本年】危険薬誤投与防止について <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全全国共同行動</li> <li>2. 危険薬の定義（主な危険薬とリスト）</li> <li>3. 類似薬の警告と区分保管</li> <li>4. 注射指示の標準化</li> </ul> </li> <li>【昨年】危険薬について～抗がん剤の取り扱い～ <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 抗がん剤のレジメン管理</li> <li>2. 抗がん剤の無菌調整（ミキシング）</li> <li>3. 施行時の注意点、投与中の血管外漏出</li> <li>4. 患者に対する薬剤説明</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 （ ○有・無 ）</li> <li>・ 業務の主な内容：手順書に基づいて業務が行われているかをチェックリストを作成し確認を行っている。</li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ ○有・無 ）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： チェックリストによって確認後、改善が必要とおもわれる業務については、当該部署と相談し適宜改善策を検討している。</li> </ul>	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：シリンジポンプ・輸液ポンプの安全な使用方法 除細動器の原理及び使用方法 呼吸器の原理及び使用方法 電気メスの原理及び使用方法 電源設備の安全な使用方法 人工心肺の原理及び使用方法</li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画の策定 ( ○有・無 )</li> <li>・ 保守点検の主な内容：人工心肺・呼吸器・電気メス・除細動器・シリンジポンプ類などの精度及び電氣的安全点検</li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( ○有・無 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：医療従事者における医療機器の動作元（電気・医用ガス等）の把握 臨床工学技師たよりによるインシデント報告</li> </ul>	